

社会のための学術としての「知の統合」推進委員会（第3回）
議事要旨

1. 日時 平成23年2月16日（水） 16:00-18:00
2. 会場 日本学術会議5-A（1）会議室
3. 出席者：矢川委員長、舘副委員長、原幹事、青柳委員、芋阪委員、野家委員、長谷川委員、本庶委員、笠木委員、安達委員、萩原委員、七文学術調査員
事務局 石原参事官、中島上席学術調査員、他
4. 資料：
 - 資料1 前回議事要旨（案）の確認
 - 資料2 日本学士院と国際学士院連合
 - 資料3 「提言」の内容と作成に向けたスケジュール（案）

5. 議事

議題1 「前回議事要旨（案）」の確認（資料1）

前回議事要旨（案）の確認を行い、承認した。

議題2 知の統合の事例紹介（資料2、資料4）

- （1）青柳委員より資料2に基づき、国際学士院連合の活動の紹介と知の連携・統合に向けた制度構築の重要性の説明があり、議論を行った。
- （2）芋阪委員より資料4に基づき、社会脳に関する研究分野（人文社会系）の活動概要、学術会議における「脳」に関する連携（心理学、医学、情報学）、脳科学委員会における知の統合に向けた試みの紹介があり、議論を行った。
- （3）長谷川委員より、E. O. Wilsonによる Consilience 等の諸例の紹介があり、議論を行った。

議題3 提言案について

「提言」の内容と作成に向けたスケジュール案（資料3）について、舘副委員長から説明がなされ、以下の点が承認された。

- ・ 事例を追加するため、七文学術調査員によるインタビューを3月初旬をめどに行う。
- ・ 3月末を目標に草案を作成し、幹事会での確認後、委員にメールで送付。
- ・ 4月の委員会を経て、第3章「提言等の内容」全体の草案を4月中に作成。
- ・ 「提言」（案）の最終版を5月中に作成。

・ 次回委員会の日程

次回委員会を平成23年4月中旬に開催することとし、日程調査を行った後に最終決定することとした。